

広報委員会 2023 年 5 月 20 日

シリーズ「エスペラントの今」第 28 号

エスペラントの現状を様々な面からご紹介するシリーズの第 28 回目をお届けいたします。ご質問、取材問い合わせ等は、当協会広報委員会までお願いします。

■ 「1930 年代を生きたエスペランティストたち」

2023 年 6 月「エスペラントの日」記念行事

「エスペラントの今」第 26 号 (2022 年 12 月) で紹介した「(日本の)エスペラントの日」の 6 月、今年は、表題にあるテーマで記念行事を開催します。詳細は、当協会のウェブサイトをご覧ください^[1]。

群馬県の民家に残された大量の手紙

時は 1930 年代。現在の群馬県藤岡市に生まれた島崎敏一さん(しまざき・としかず 1913~1946) [写真] が、エスペラント運動の機関誌の文通欄を活用し、1929~40 年にかけて、世界中のエスペランティストと文通を続けてきました。

戦地からの復員後すぐに、島崎さんは世を去りましたが、残された約 300 通の手紙は戦災を免れました。最近になって、長男の島崎妙一さんと出会った エスペランティストの堀泰雄さん(群馬県前橋市) が手紙のを知ることになりました。

手紙の内容は、第二次世界大戦に向かっていく当時の世界各地の政治・経済情勢を伝える、世界中のエスペランティストたちの肉筆でした。特に多かったのはドイツのエスペランティストからの手紙で、ナチスの勢力が増大し、ドイツがファシズム一色になっていく様子が、エスペラント語で次々と島崎さんに伝えられていました。

手紙は、堀さんの手で日本語に翻訳され、『1930 年代を生きたエスペランティストたち』^[2] と題して、2022 年夏に出版され、2022 年 11 月 15 日付東京新聞^[3] や群馬県内各紙で紹介されました。■



「エスペラントの日」記念行事の概要

講演会および展示会を 6 月 23 日(金)~25 日(日)に、下表のとおり開催します。

講演会	展示会
「1930 年代を生きたエスペランティストたち 島崎敏一さんが受け取った 300 通の手紙から」	「1930 年代を生きたエスペランティストたち」に関する、当時の手紙や絵葉書の実物の展示
日時：6 月 24 日(土) 14:00~16:00 場所：エスペラント会館(東西線早稲田駅すぐ) および オンライン(要申し込み) 講演者：堀泰雄さん	日時：6 月 23 日(金)~25 日(日) 15:00~21:00 場所：エスペラント・ビーガン・カフェ SOJO(そーよ) (エスペラント会館から徒歩 5 分)

参考[1] 第 10 回「エスペラントの日」記念公開講演会 (6 月 24 日)

<<https://www.jei.or.jp/publikaprelego2023/>>

[2] ホリゾン出版、『1930 年代を生きたエスペランティストたち』、

ISBN 978-4-939088-57-5

[3] 東京新聞 <<https://www.tokyo-np.co.jp/article/214018>>

